

News Release

2020年4月17日

## 太陽誘電:IoT 関連機器向けにセンサーノード開発キットを販売

- Bluetooth®モジュールとセンサーを組み合わせ IoT のスタートアップを支援 -

太陽誘電株式会社(代表取締役社長:登坂 正一、本社:東京都中央区)は、Bluetooth®( 1)モジュールの評価ボードと、センサーやサンプルコード(注 1)などを組み合わせ手軽にセンサーノード(注 2)を開発できる、センサーノード開発キットを販売します。

多くのスタートアップでは、アジャイル開発やリーン開発(注 3)と言われる開発手法を使い、短期間での商品開発が進んでいます。しかしながら、IoT(注 4)関連機器を試作するためには、各種センサーや無線モジュール、さらにそれらを接続するための専用の基板やコネクタなどを準備する必要があり、調達にかかる手間や時間などのコストが課題となっていました。

そこで太陽誘電は、このような IoT 関連機器のスタートアップ開発にまつわる課題を解決するため、1 セット単位で購入可能な、センサーノード開発キットを商品化しました。この商品は、Bluetooth®モジュールの評価ボードに温度、照度、加速度の 3 種類のセンサーとそれらを動作させるサンプルコードを組み合わせ、IoT 関連機器を開発するうえで課題となるハードウェア、ソフトウェアなどを 1 つにまとめ、簡単にセンサーノードを試作できる開発キットです。

この開発キットは 2020 年 4 月から発売予定です。当社サンプル価格は 1 セット 7,980 円( 2)です。

電池で動作する IoT 関連機器は、センサーネットワークなどをはじめ、きわめて低消費電力で稼働することが求められます。またそれらの機器を開発する上で、無線通信用にソフトウェアを開発する必要があり、開発期間などが課題になっていました。さらに、試作段階において少数でも購入可能な無線モジュールやセンサーの調達、それらを接続するコネクタやインターフェースの用意など、さまざまな課題があります。

そこで太陽誘電は、低消費電力な無線通信規格として広く普及している Bluetooth®を使い、温度、照度、加速度といった代表的なセンサーと、それらのセンサーのデータをスマートフォンのアプリに表示させることができるサンプルコードを組み合わせたセンサーノード開発キットを商品化しました。

今後も市場からのニーズに応え、より使いやすい無線モジュールの開発を進めてまいります。

1 Bluetooth®ワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有しており、ライセンスに基づき太陽誘電株式会社が使用しています。

2 掲載のサンプル価格は当社の販売サンプル価格です。代理店からご購入の場合は、各代理店へお問い合わせ下さい。

### 用語解説

(注 1) サンプルコード

ある機能を動かすために書かれたコンピュータープログラムのこと。

(注2) センサーノード

あらゆる場所に設置されたセンサーをネットワークにつなぐために、無線モジュールや電源などを組み込んだ機器のこと。

(注3) アジャイル開発、リーン開発

アジャイル(Agile)とは、「すばやい」、「俊敏な」という意味。アジャイル開発は、短期間で試作やテストを行い、使用感などを確認しながら改善を重ねて、完成度を高めていく開発手法。

リーン(Lean)とは、「痩せた」、「引き締まった」という意味。リーン開発は、最初に仮説を構築し、その仮説を計測するのに必要最低限の製品を開発し、その反応を確認して完成度を高めていく開発手法。

いずれの開発手法も、開発リソースが限られるスタートアップで良く利用されている。

(注4) IoT (Internet of Things、モノのインターネット)

スマートフォンやウェアラブル機器をはじめ、自動車、産業機器などあらゆるものに通信機能が搭載され、インターネット接続や相互通信により、自動制御や遠隔管理などが行われること。